

## 南アフリカの果実輸出 新しい市場で進展

FreshPlaza 2023年5月11日

全体として見ると、農業は南アフリカのGDPの2.5%を占めるに過ぎないが、輸出額では11%を占めている。農業部門は全体的に輸出志向であり、出荷額の約半分を輸出している。南アフリカの果実産業は圧倒的に輸出に焦点を当てた産業であり、生鮮果実は南アフリカの農産物輸出の約35%を占めている。研究開発や生産者・業界団体の能力開発の何十年にもわたる取組みが、世界的に競争力のある高品質の果実の生産に結び付いた。例えば、南アフリカは世界第2位の柑橘類輸出国であり、第6位のナシ生産国、第7位のブドウ輸出国、第8位のリンゴ輸出国、第9位のアボカド輸出国である。

輸出市場に関して果実産業は、従来からあるEU、英国、米国の市場を維持・最大化するとともに、東アジアと中東の新しい市場へのアクセスを獲得しようとしている。柑橘類は最大の輸出作物でほぼ3分の2を占め、仁果類(ナシ、リンゴ等)、生食用ブドウ、核果類(スモモ、モモ等)、亜熱帯果実がそれに続く。南アフリカの輸出業者は、インド、中国、日本からマレーシア、フィリピン、タイ、韓国、ベトナムに至るまで、幅広い東アジア市場への参入に熱心である。ほとんどの品目は新植により生産を拡大しており、近い将来輸用量が増加することから、成長する果実部門には新しい市場が必要である。

果実の種類	2022年に対する2027年の予想成長率
ベリー類	110%
ブドウ	3%
柑橘類	39%
亜熱帯果実	6%
落葉果実	15%

農業ビジネス協会(Agbiz)のウルフ・ブラウデ氏は、「日本や中国など一部の市場では、各(柑橘類)品種を別々に提供する必要があるため手間がかかり、非常に遅いプロセスになる可能性があるが、これらの市場である程度の進歩を遂げている。中国では南アフリカ産柑橘類に対する大きな需要がある」と述べた。(以下「」は同氏の発言)

現在、米国では黒星病の非汚染地域の柑橘類のみを輸入できるが、ウルフ氏はこれが早期に変わることを期待している。さまざまな港からのアクセスが開放されたため、米国への輸出が増加している。

アフリカ諸国も、南アフリカ産のあらゆる種類の果実の潜在的に大きな輸出市場である。現在、リンゴとナシは西アフリカと東アフリカで好調である。アフリカ市場の問題は、新しくできたアフリカ大陸自由貿易圏でさえ、多くの国々が必要なインフラを欠いているため、完全なコールドチェーンを確保できないことである。国境通過の過度の遅延と統一されていない植物検疫体制がリスクを増大させている。

「プロトコル(手順や規則)を正し、国境手続きを合理化するためにアフリカ市場に多くのエネルギーが投入されてきたが、冷蔵貯蔵施設がなければ、生産者にとって大きなリスクであり、国境での遅れも果実に影響を与える。アフリカ市場から得るべき利益はあるが、他の地域の市場の方がはるかにリスクが少ない。」

ヨーロッパはこれまで常に南アフリカ産果実の最大の輸出先の1つであり、今後もそうあり続けるであろうが、柑橘類の輸出に関するプロトコルの最近の変更により、それは非常に困難になり、また果実の輸出にある程度の不確実性をもたらした。

「柑橘類の規則がそのように突然変更されるのであれば、他の果実にもリスクがあるのか? 現在の措置は正当化されないが、公正な解決の余地もあるはずだ。それは双方に受け入れられる暫定措置であり、このことが南アフリカ政府がWTOに訴えることを業界が支持した理由である。それは微妙な状況であり、慎重に交渉する必要がある。結局、年間52週間柑橘類を売り場に置くことが、すべての人の最大の関心である。南アフリ

カは、EU向けの果実の病害虫管理システムに年間約17億ランド(約120億円)を費やしている。」

南アフリカは現在、貿易協定についてはインドとのみ交渉を行っており、業界と政府は、複数の地域市場との植物検疫プロトコルの確立と合意に主に力を入れている。そのため、南アフリカの出荷業者は、他国の同業者の多くが享受している優遇されたアクセスを利用できないが、業界は、製品の品質と一貫性により、それらの市場の消費者が南アフリカ産果実を賞味してくれると自信を持っている。これらの市場では、柑橘類、核果類、仁果類、ライチ、アボカド、マンゴー、ブルーベリー、カキ、生食用ブドウなど、さまざまな果実について交渉が進行中である。業界はまた、国の財政への農業部門の貢献を最大化するため、優遇された貿易をどのように利用するのが最善かについて政府と話し合っている。農業部門は過去10年間、一貫して貿易黒字を維持してきた。

「最近の植物防疫交渉の成果としては、インド向けのナシと中国向けのレモンがある。今後のBRICS閣僚会議と関連会合がインド及び中国との交渉に勢いを付けることが期待されている。BRICSは貿易だけのためのプラットフォームや協定ではないが、BRICS内の貿易フローを増やすというメンバー国間のコミットメントがある。」(BRICS: ブラジル、ロシア、インド、中国、南アフリカの新興5か国)

東アジアとのプロトコルをより多く成立させる動きは続いており、南アフリカ産果実の品質はその意義を証明している - リンゴの輸出の約29%、ナシの23%、生食用ブドウの9%、柑橘類の21%、グレープフルーツの45%、ソフト柑橘類の17%、ブルーベリーの9%が、2021年にすでにこの地域に出荷された。南アフリカのこの産業の拡大と、柑橘類に代表されるEU市場にまつわる規制の不確実性の増大を考えると、これらの品目に関し、またはこの成長市場にまだほとんど参入していない人々に関係する成長は、莫大な余地があり、非常に必要とされている。

執筆者: ニコラ・マクレガー